

■ MPS肺炎
■ 胸膜炎

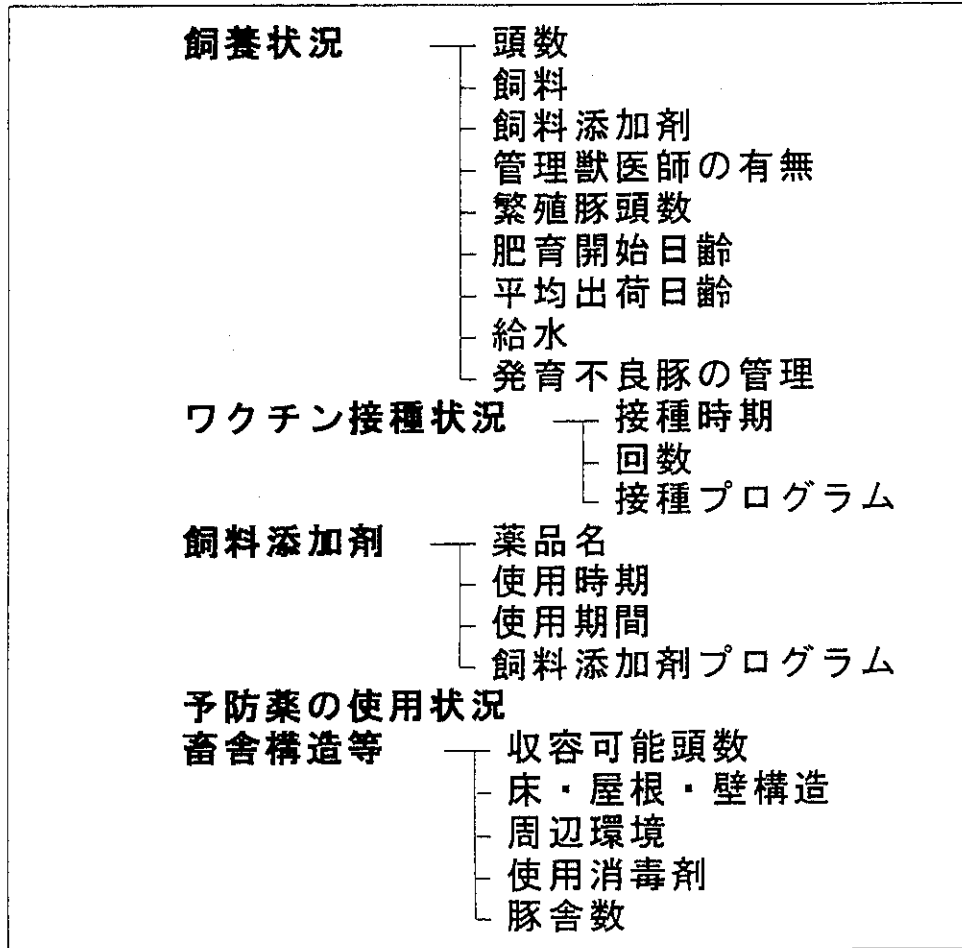
図3: 管理方法別肺炎指数比較

1) 肺炎の罹患面積 (+~+++) の中央値の管理方法別平均値。
 2) AはMワクチン、Aワクチンともに1回の接種、BはMワクチン1回、Aワクチン2回接種、CはMワクチン3回、Aワクチン2回接種の集団をさす。

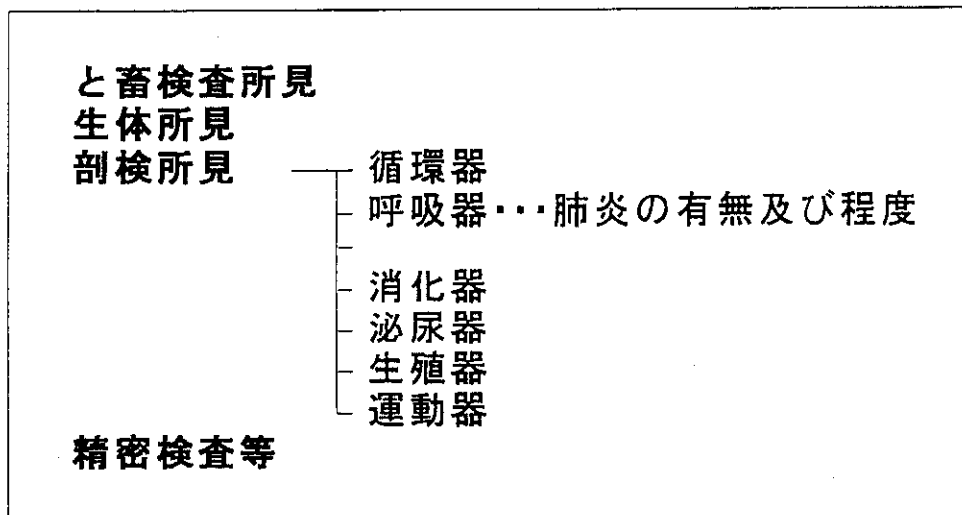
表 2

豚

[生産者から提供を受けた情報]



[生産者へ還元したデータ]



[生産者から提供を受けた情報]

畜種・品種・性別・生年月日	
導入年月日・導入時体重・導入先	
予防	防実施年月日
	予防の内容
	予防薬剤名等
治療	治療等の実施年月日
	治療の内容
	治療薬剤名等
飼育時の特記事項 と畜検査結果で特に知りたい内容	
削蹄	
最終分娩	
食欲	
歩行の様子	
1ヶ月以内の体重の変化	
排尿・尿の性状・便の性状	
姿勢の異常	
元気・行動の異常	
皮毛	
視力	

[生産者へ還元したデータ]

と畜検査所見	
生体所見	
剖検所見	循環器
	呼吸器
	消化器・・・肝炎・肝膿瘍等
	泌尿器・・・膀胱結石・尿道炎等
	生殖器
	運動器
	その他
精密検査等	
コメント	

資料No. 1

岩手県紫波食肉衛生検査所

厚生科学研究所事業報告

紫波食肉衛生検査所

1. 平成10年度

(1) 実施農場

協力依頼をしたA農場は岩手県花巻市に所在する有限会社で、北海道及び岩手県内から生後9～11ヶ月令の黒毛和種を導入、平均25ヶ月令まで肥育している。飼育頭数は、370頭程度である。

(2) 実施内容

- ① A農場より、(株)岩手畜産流通センター食肉処理場に導入される牛のデータの提供を、別紙1の様式により受ける(FAX. 使用)。
- ② と畜検査を別紙2のとおり記録、A農場にと畜検査結果を還元(FAX.)
- ③ ①と②により、農場での管理状況をと畜検査の参考にすると共に、検査結果の情報還元を行うことにより、生産者がと畜検査結果の情報を基に肉用牛の飼養管理に生かせるような体制等の構築を目指した。

(3) 実施件数

平成10年11月から開始し、10年度中に88頭の黒毛和種について実施した。

2. 平成11年度

(1) 実施農場

平成10年度に実施したA農場のほか、岩手経済連が岩手宮古農協(主として豊間根支店)を通じて肥育を委託している農場。ホルスタインについては2軒、和牛については14～15軒である。ホルスタイン委託農場は50～100頭飼育であるが、和牛については大規模から小規模までさまざまである。

(2) 実施内容

平成10年度の事業を実施、継続することとした。なお、と畜検査データ還元に係る打合せ会議を実施し、生産者(フィードバック事業対象)、農協、経済連、食肉処理場関係者及びと畜検査員が、と畜検査データ還元の有用性とこれまでのフィードバックを踏まえての要望等について協議した。また、岩手経済連委託農場からの飼養管理状況の情報提供については、委託農場(生産者)が牛の詳細な個体管理を計っていなかったことから、と畜検査に有効な情報については生産者が記入しやすいように改め、別紙3の様式とした。

(3) 実施件数

A農場については44頭実施、経済連委託農場については16頭実施した。

3. 実施結果について

(1) 平成10年度と平成11年度との廃棄状況の比較

一部廃棄実頭数は、平成10年度が66頭(75.0%)、平成11年度が33頭(75.0%)と、同率であった。臓器別では、肝臓と泌尿器の疾病の減少がみられた。しかし、その他の臓器の疾病状況については廃棄の割合が低く、疾病の増減等の動向をつかむことが困難であった(図1)。

廃棄率の減少が見られた肝臓及び泌尿器の疾病別状況は、それぞれ図2、図3の通りであった。肝臓においては、肝炎の減少が見られた。また、肝臓の他の疾病はわずかずつ減少し、肝臓の疾病全体にいたって10.7ポイント(23.0%)の減少となった。なお、肝臓リポフスチン沈着症は加齢による変化なので、疾病とは別に取り扱った。泌尿器においては、尿道炎や膀胱炎などの炎症、腎臓結石や尿管結石などの尿路結石ともに大幅に減少した。

全部廃棄は、平成10年度、11年度ともに無かった。

(2) フィードバックの効果について

A農場については、飼養時の状況、特に既病歴や過去の治療暦を事前に生産者から入手することができ、と畜検査における有効な情報とすることができた。また、検査結果についてもこれまでより詳細なデータを還元することができ、生産者からも疾病予防の参考にしたい知りたい情報が早く入手できる等の評価を得た。

経済連委託農場については、頭数が少なく検査結果の情報還元に対する生産者の期待感も薄く、疾病の排除に対する理解が薄いように思われた。

4. まとめ

A農場については一応の成果を見たが、経済連委託農場については生産者の意識を高めるまでにはいかなかった。今後においても、と畜検査に有効な生産者からの情報の内容と、生産者が必要とする情報還元についてさらに検討を加え、生産者にとってより効果的なフィードバックを行っていく考えである。

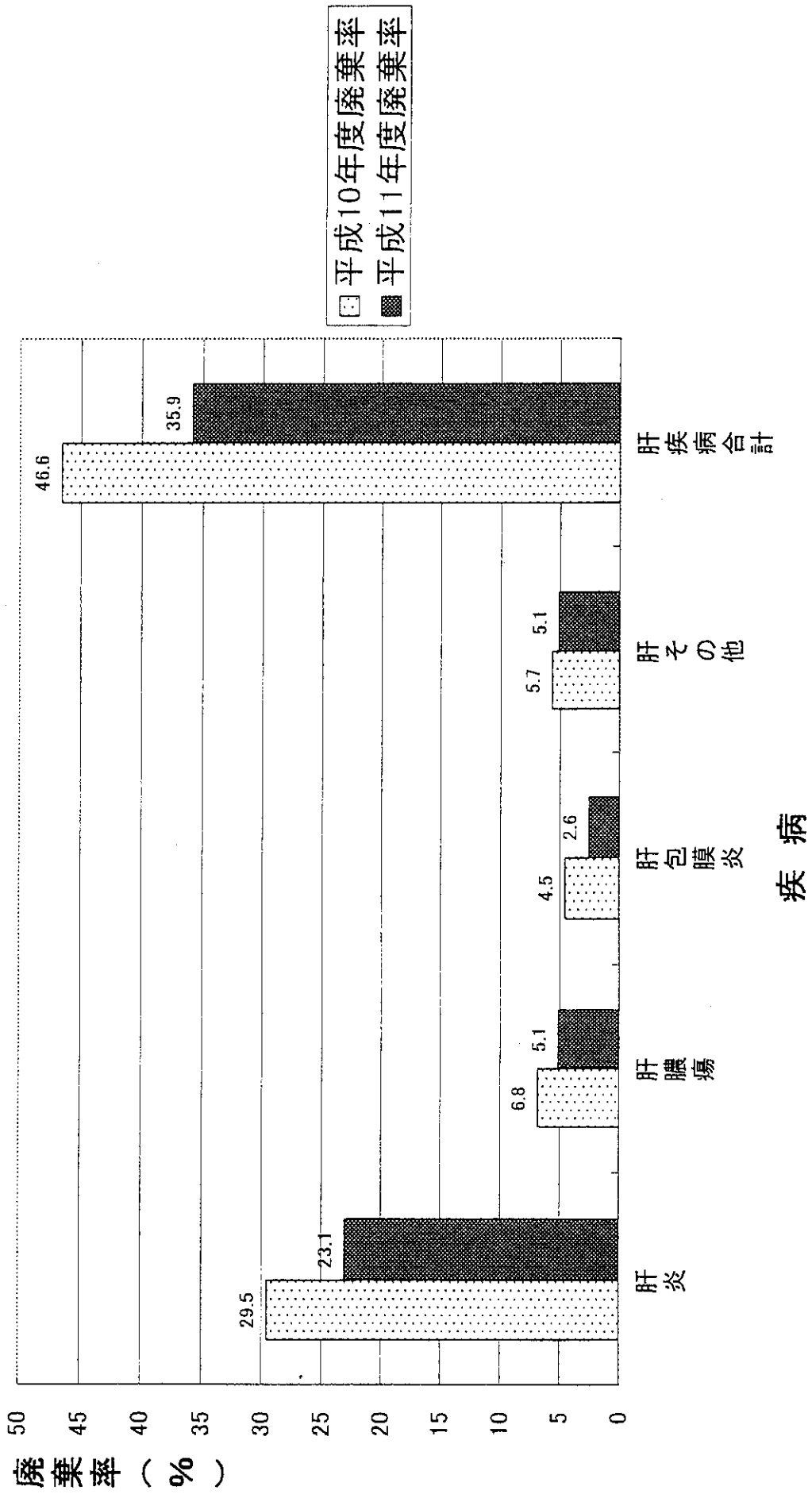


図1 年度別肝臓廃棄状況

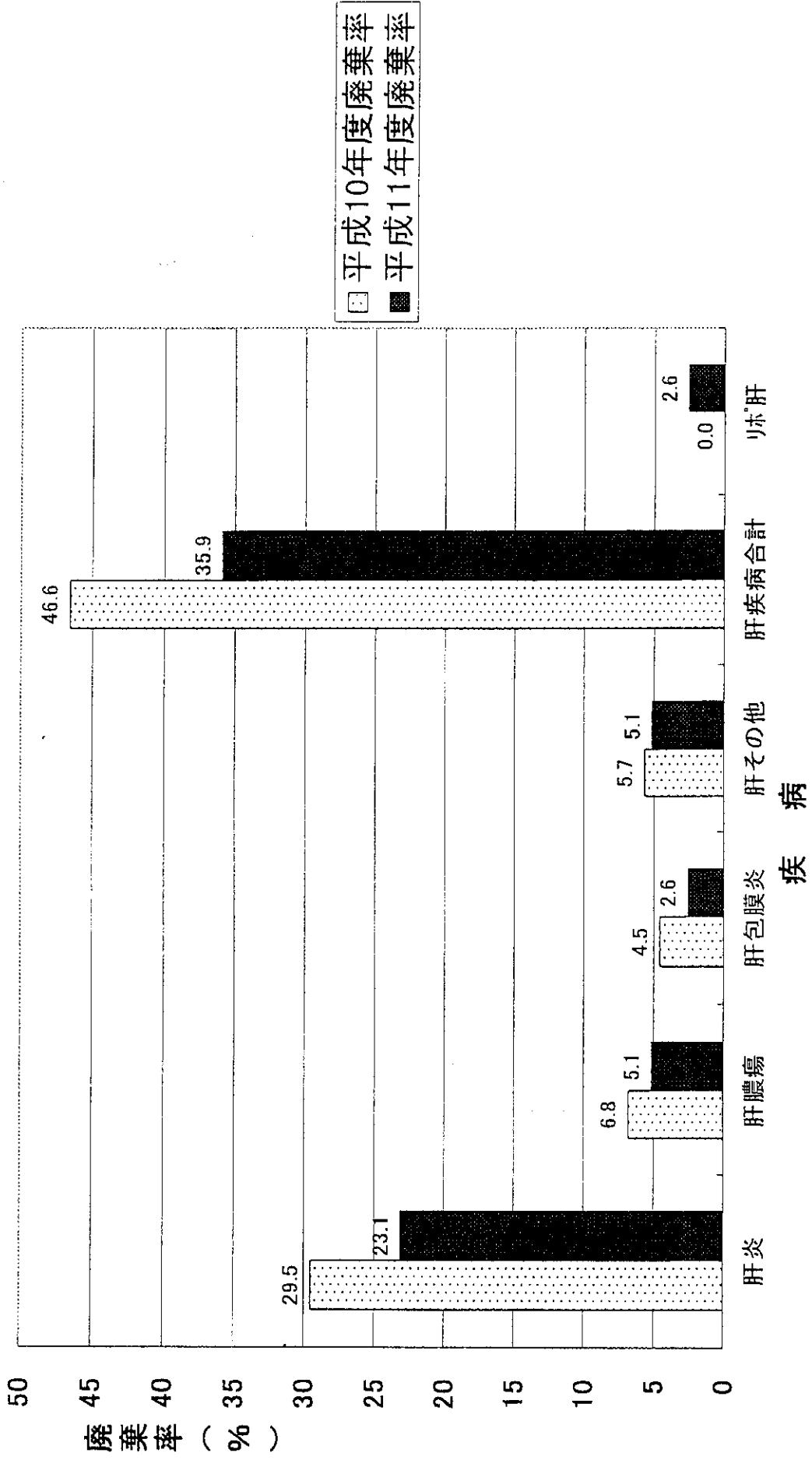


図2 年度別疾病別肝臓廃棄状況

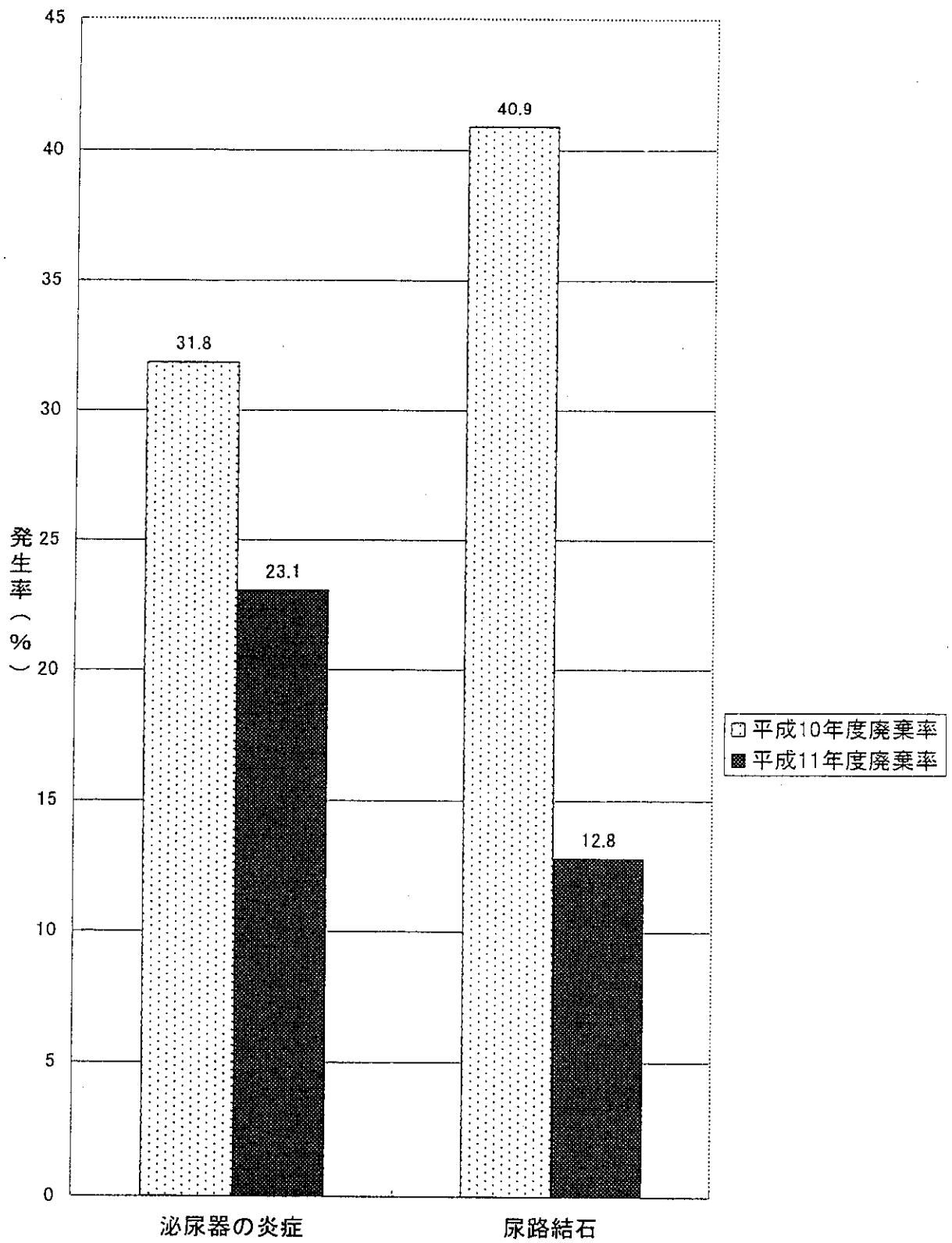


図3 年度別泌尿器疾病状況

と畜検査データ還元事業(検査所用)

と畜年月日	平成11年4月27日	と畜番号	79	個体番号	682	畜種	牛	品種	黒毛和種
性別	去	生年月日	平成9年8月14日	年齢	1才8ヶ月	導入年月日	平成10年2月26日		
導入先	生産公社								
既往症及び治療歴:10.2.26~28マイシリン、アイボメック、カナマイシン、10.3.3同5.21ヘモフィルスワクチン、10.4.19~24ピオペア、10.5.2~11.4.25ウロカルン、11.1.23ラクトリンゲル、AD3E									
その他飼育時の特記事項:10.4.29採血、11.4.25膀胱拡張、黄色便、眼結膜やや充血									
と畜検査所見									
生体検査									
著変認めず									
	疾病名	肉眼所見							廃棄部位
循環器									
呼吸器									
消化器		大小腸特に変化無し。							
泌尿器		膀胱、尿道に砂粒状の結石有り。粘膜充血							
生殖器									
運動器	腹部筋炎、水腫	腹壁内面充血、水腫							腹壁正中線部分
その他									
精密検査等									
コメント									
飼育時発熱、尿が褐色になったことはありませんでしたか。									
生体時重量		kg	枝肉重量		343kg				

と畜検査データ還元事業(生産者用)

畜種	牛	品種	種	性別	♂・去・♀	固体番号	
生年月日	平成 年 月 日		導入年月日	平成 年 月 日		導入時体重	kg
導入先							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 下記のうち、該当する項目のa, b, cに○印、もしくは内容を記入ください。 </div>							
1. 削蹄 (a 3ヶ月以内 b 3ヶ月以上前 c なし) 2. 最終分娩 (a なし b 1ヶ月前 c 2ヶ月前 d 3ヶ月以上前) 3. 食欲 (a 異常なし b 1週間以上減退 c 3日以上 廃絶) 4. 歩行の様子 (a 右前足の破行 b 左前足の破行 c 右後足の破行 d 左後足の破行 e よろける) 5. 1ヶ月以内の体重の変化 (a 増加 b 不変 c 10kg程度減少 d 削瘦) 6. 排尿 (a 異常なし b 淋漓 c 2日程度尿閉 d 3日以上尿閉) 7. 尿の性状 (a 異常なし b 濁り有り c 血尿) 8. 発咳 (a 特になし b 時々 c 頻繁) 9. 便の性状 (a 異常なし b 軟便 c 水様便 d 血便 c 便秘) 10. 姿勢の異常 (a 特になし b 背中を丸める c 尾を挙げる d 起立困難または不能) 11. 元気 (a 異常なし b 沈うつ c 一日中寝ている) 12. 行動の異常 (a 特になし b 自分の腹を蹴る c 頭を盛んに振る d 落ち着きがない) 13. 皮毛 (a 異常なし b 粗い c 脱毛 d 退色) 14. 視力 (a 異常なし b 減退 c 盲目) 15. その他							
疾病、治療の記録							
主治医(獣医師)の氏名及び所属							

JAみやこ H11. 8. 20 丑101

経済連委託農場からの情報(例)

N036

と畜検査データ還元事業(生産者用)

畜種	牛	品種	① 飛	性別	♂・去	♀	団体番号	722428
生年月日	平成7年7月9日	導入年月日	平成0年6月/月	導入時体重	245kg			
導入先	新里村							

下記のうち、該当する項目のa, b, cに○印、もしくは内容を記入ください

1. 前蹄 (a 3ヶ月以内 b 3ヶ月以上前 c なし)
2. 蹄底分岐 (a なし b 1ヶ月前 c 2ヶ月前 d 3ヶ月以上前)
3. 食飲 (a 異常なし b 1週間以上減速 c 3日以上減速)
4. 歩行の様子 (a 右前足の跛行 b 左前足の跛行 c 右後足の跛行 d 左後足の跛行 e よろける)
5. 1ヶ月以内の体重の変化 (a 増加 b 不変 c 10kg程度減少 d 別項)
6. 排尿 (a 異常なし b 淋漓 c 2日程度尿閉 d 3日以上尿閉)
7. 尿の性状 (a 異常なし b 濁り有り c 血尿)
8. 発汗 (a 特になし b 時々 c 頻繁)
9. 便の性状 (a 異常なし b 軟便 c 水様便 d 血便 c (便秘)
10. 姿勢の異常 (a 特になし b 背中を丸める c 尾を上げる d 起立困難または不協)
11. 元気 (a 異常なし b 沈うつ c 一日中寝ている)
12. 行動の異常 (a 特になし b 自分の腰を蹴る c 頭を壁に突く d 産ち着きかた)
13. 皮膚 (a 異常なし b 粗い c 脱毛 d 退色)
14. 視力 (a 異常なし b 減速 c 盲目)
15. その他

疾病、治療の経緯

H11. 8. 20.

脂肪工死

主治医(獣医師)の氏名及び所属

と畜検査データ還元事業(検査所用)

と畜年月日	平成11年8月24日	と畜番号	36	個体番号	742428	畜種	牛	品種	黒毛和種
性別	牝	生年月日	平成9年7月9日	年齢	2歳	導入年月日	平成10年6月17日		
導入先	新里村								
特記事項	脂肪壊死(H11.8.20)								
と畜検査所見									
生体検査									
著変認めず									
	疾病名	肉眼所見						廃棄部位	
循環器									
呼吸器									
消化器	脂肪壊死	鶏卵大の脂肪壊死						胃、腸	
泌尿器	脂肪壊死	両方の腎周囲脂肪壊死						腎	
生殖器									
運動器									
その他									
精密検査等									
コメント									
脂肪壊死: 脂肪組織が壊死に陥って、硬結したもの。牛の脂肪壊死は、主に肥満動物の腹腔内にみられ、時に大型の壊死塊を形成し、腸管や子宮の狭窄、尿道の閉鎖を招く。日本ではほとんど黒毛和種に発生するが、品種との関連は不明。原因は過度の肥満、臍臓障害など諸説がある。									

資料No. 2

岩手県水沢食肉衛生検査所